

## コクチバスとの 23 年 「殺したい程愛してる」

新村安雄 リバーリバイバル研究所

琵琶湖博物館の企画展「外来種 一連れてこられた生き物たち」(2003)の撮影で初めてコクチバスをみた。そのフォルム、運動能力は我が国の淡水魚類の全てを凌駕するもので、オオクチバスが鈍重にみえた。正直なところ、魚類としてのコクチバスには、心を奪われてしまった。だが、当時は長野県内の湖でのみ棲息が確認されていた本種であったが、もし河川に拡がることになったらという不安がよぎった。しかし、その杞憂は現実となりつつある。

国土技術総合研究所が 2003 年に発表した「河川水辺の国勢調査 1~6 巡目調査結果の経年変化」(2003)コクチバスの確認された河川数をみると、確認河川数は増加を続けている。河川水辺の国勢調査は一級河川など大河川を対象としており、二級河川などを調査対象としたら、確認河川数はさらに増加する可能性が高い。

2023 国土技術総合研究所 河川水辺の国勢調査 1~6 巡目調査結果の経年変化

表 23 1~6 巡目調査の確認河川数の比較 (コクチバス)

巡目 (調査実施河川数)	1 巡目調査 (76 河川)	2 巡目調査 (119 河川)	3 巡目調査 (121 河川)	4 巡目調査 (123 河川)	5 巡目調査 (122 河川)	6 巡目調査 (123 河川)
確認河川数 [確認河川の割合]	0 河川 [0.0]	3 河川 [2.5]	5 河川 [4.1]	11 河川 [8.9]	20 河川 [16.4]	27 河川 [22.0]

すでに、国内の多くの河川に侵入しているコクチバスであるが、コクチバス狙いの釣り人はそのことよく知り、情報を共有している。彼らの行動からその侵入の実体をつかめるのではないか。

○今まで見たことが無い川(場所)でルアー釣りをしている人がいる。

アマゴ、ヤマメが棲息するには高水温の時期に溪流でルアー釣り。アユの解禁前に中流域でルアー釣りをしている釣り人がいる。

○コクチバスの繁殖期にあたる 5 月から 7 月にかけて、河川中流域のトロ場の異形ブロック(テトラポッドなど)、河川構造物(堰堤、帯工など)などの際部分を探っている釣り人がいる。

○コクチバスは溪流から河口まで、国内の河川での棲息が可能である。中流から下流域でもシーバス釣りといって釣っているケースがある。

○高所にあるため池で「ワカサギ」が見つかった。

○カワムツが増えている。(関東の河川など)

コクチバスはアユなどよりも電気刺激に敏感なようでショッカーでの採捕が難しい可能性があるが、コクチバスウオッチャーとして提案する駆除方法については、当日とします。